

大津市がん対策推進基本計画の進捗状況及び 第2期大津市がん対策推進基本計画骨子案に ついて

健康保険部保健所健康推進課
令和6年6月24日

- 1.大津市がん対策推進基本計画
（現計画）の進捗評価・ ・ ・ P3

- 2.がん対策に関する市民・事業所
意識調査の結果概要・ ・ ・ P22

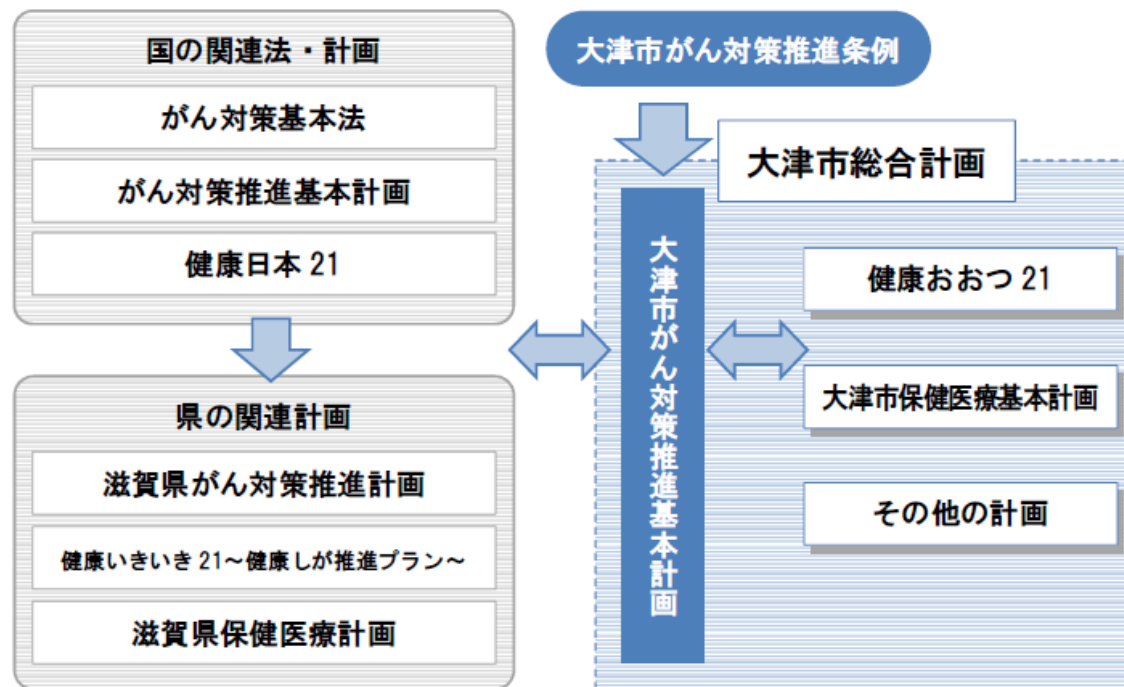
- 3.第2期大津市がん対策推進基本計画
骨子案について・ ・ ・ P26

1.大津市がん対策推進基本計画（現計画）の 進捗評価



計画の性格と位置づけ

本計画は、「大津市がん対策推進条例」に基づき策定し、本市の健康増進計画である「健康おおつ21（第3次）」の関連計画として位置づけています。また、策定に際しては、国の「がん対策推進基本計画」、「滋賀県がん対策推進計画」等との整合性を図るものとしています。



関連計画と計画期間

関連計画と実施期間(がん対策)

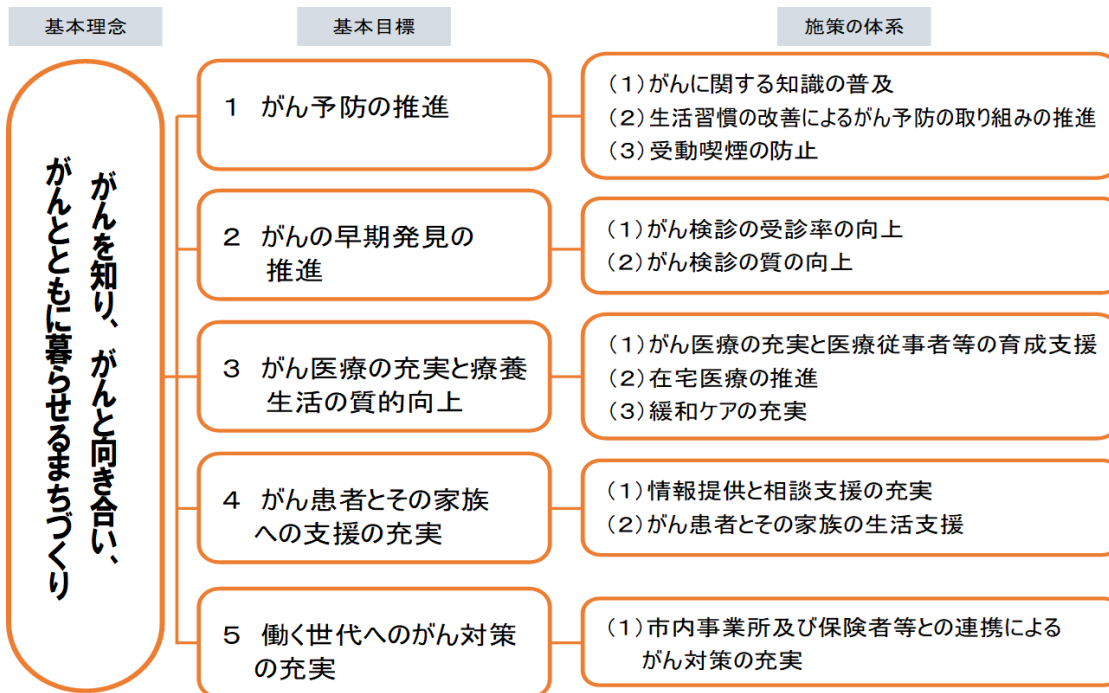
		S59～H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31 (R元)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
国	法	対がん10カ年 総合戦略	がん対策基本法(H19.4.1施行 最終改正H28)																			
	計画		がん対策推進基本計画																			
			第1期				第2期				第3期				第4期							
県	条例								滋賀県がん対策の推進に関する条例(H25.12.27施行)													
	計画				滋賀県がん対策推進計画																	
			第1期				第2期				第3期				第4期							
市	条例											大津市がん対策推進条例(H28.4.1施行)										
	計画											大津市がん対策推進基本計画										
													第1期 ※R3年度中間評価				第2期					

■計画期間

現計画：平成29年度 ～ 令和6年度（8年間）

次期計画：令和7年度 ～ 令和12年度（6年間）

計画の体系と基本目標



1. がん予防の推進

がんに関する正しい知識を普及し、がんに対する認識を深めるとともに、生活習慣の改善や受動喫煙の防止対策によるがん予防の取り組みを推進します。

2. がんの早期発見の推進

がんになり患しても早期の段階で発見し、治療を受けることによりがんによる死亡を減らすことが可能となってきたことから、がん検診の受診率の向上やがん検診の精度管理により、がんの早期発見を推進します。

3. がん医療の充実と療養生活の質的向上

在宅医療の推進やがん医療の充実を図るとともに、がんと診断されたときからの緩和ケアの実施等により、がん患者や家族の療養生活の質の向上を図ります。

4. がん患者とその家族への支援の充実

がん患者やその家族のさまざまな不安や苦痛を和らげ、安心して生活することができるよう、情報提供体制や相談支援体制の充実を図るとともに、がん患者の生活支援を推進します。

5. 働く世代へのがん対策の充実

企業などの事業主と連携し、がん検診の受診勧奨を進め、働く世代のがんの早期発見に努め、早期治療につなげます。また、「がん対策基本法」を踏まえ、企業などの事業主等へのがん患者や家族の雇用継続に向けた啓発に努めます。

現計画の指標の状況

< 評価基準 >

記号	指標の目標値に対する評価	配点
A	目標を達成した	4
B	現時点で目標に達していないが、改善傾向にある	3
C	変わらない	2
D	やや悪化している	1
E	悪化している	0

< 数値増減の表記の見方 >

↑ • ↓	改善傾向
→	変化なし
↑ • ↓	悪化傾向

現計画の指標の状況【基本目標別】

基本目標 1 がん予防の推進

(1)がんに関する知識の普及

指標項目	目標値 (R6)	策定時 (H28)	最新値 (R5)	数値 増減	目標値 との差	評価	概況
①「多くのがんは早期発見により治癒が可能である」ことを認識している人の割合	70.0%	58.5%	69.9%	↑	-0.1%	B	【最新値：市民意識調査】 ①、②についての認識は増加し、回答率は目標値をわずかに下回りましたが、達成に近づいています。 ③で50%以上の回答（知っている）があった項目 「喫煙習慣」（76.2%）↑ 「偏った食生活」（58.4%）↑
②「日本人は、約2人に1人が、将来、がんにかかる」と推測されている」ことを認識している人の割合	50.0%	26.4%	48.7%	↑	-1.3%	B	策定時と同様の項目でしたが、回答率はいずれも増加しています。 ③で回答率50%に届かないが、策定時に比べて回答率が増加した項目 「太り過ぎ ややせ過ぎ」（24.7%）↑
③がんになる要因について知っている人が50%以上の項目数の増加	8/8項目	2/8項目	2/9項目	→	-7項目	C	③で策定時に比べて回答率が減少した項目 「他人のたばこの煙を吸う」（44.3%）↓ 「塩分のとり過ぎ」（29.5%）↓ 「野菜・果物不足」（20.9%）↓

現計画の指標の状況【基本目標別】

基本目標 1 がん予防の推進

(2) 生活習慣の改善によるがん予防の取り組みの推進

指標項目	区分	目標値 (R6)	策定時 (H27)	最新値 (R4)	数値 増減	目標値 との差	評価	概況
①食塩の摂取量の減少	20歳以上男性	8g未満	11.3g	12.1g	↑	4.1g オーバー	D	【最新値：令和4年度滋賀の健康・栄養マップ】 ①食塩摂取量については策定時と比較すると、男性で悪化、女性で変化無しでしたが、いずれも目標値に対しては未達となっています。
	20歳以上女性	7g未満	9.7g	9.7g	→	2.7g オーバー	C	
②適正体重である人の増加	中高年期男性 (40歳以上)	70%	66.2%	68.6%	↑	-1.4%	B	②適正体重（40歳以上）については、男性は改善し達成に近づいていますが、女性は策定時よりも悪化しています（もともとBMI21未満が4割あるところに25以上が増加）
	中高年期女性 (同上)	50%	45.0%	41.7%	↓	-8.3%	D	
③運動習慣者の割合の増加	20～64歳男性	28%以上 (R4年度)	25.9%	28.0%	↑	+0%	A	③運動習慣については男性は目標値を達成、女性も改善傾向です。
	20～64歳女性	27%以上 (R4年度)	23.1%	24.2%	↑	-2.8%	B	
④生活習慣病のリスクを高める量の飲酒をしている人の割合の減少	男性 (20歳以上)	7.7%	10.5%	10.3%	↓	2.6% オーバー	B	④飲酒及び⑤喫煙率については成人男性の飲酒率、喫煙率が減少し喫煙率については目標値を達成しています。一方、女性の飲酒・喫煙率が増加（悪化）しています。中高年女性の適正体重、女性の飲酒率・喫煙率等の目標値達成に向けて、
	女性 (20歳以上)	3.0%	4.0%	7.1%	↑	4.1% オーバー	E	
⑤成人の喫煙率の減少	男性	18.8%	24.5%	16.2%	↓	2.6% 低下	A	がん予防の観点からの生活改善の重要性を発信していくことが必要になっています。
	女性	1.8%	2.6%	3.1%	↑	1.3% オーバー	E	

現計画の指標の状況【基本目標別】

基本目標 1 がん予防の推進

(3)受動喫煙の防止

指標項目	区分	目標値 (R6)	策定時 (H27)	最新値 (R4)	数値 増減	目標値 との差	評価	概況
①受動喫煙の機会を有する者の割合(※)の減少	家庭	3.0%	6.8%	<u>2.8%</u>	↓	-0.2%	A	【最新値：令和4年度滋賀の健康・栄養マップ】 家庭、職場、飲食店のいずれの場所でも受動喫煙の機会は減少しました。 受動喫煙率は家庭では2.8%、飲食店では8.6%となり、この2指標について目標値を達成しています。
	職場	0%	38.5%	<u>10.5%</u>	↓	10.5% オーバー	B	
	飲食店	15.0%	49.4%	<u>8.6%</u>	↓	-6.4%	A	

※「非喫煙者」が受動喫煙の機会を有する割合

現計画の指標の状況【基本目標別】

基本目標 2 がんの早期発見の推進

(1) がん検診の受診率の向上

指標項目	区分	目標値 (R6)	策定時 (H27or28)	最新値 (R5)	数値 増減	目標値 との差	評価	
①がん検診の受診率の向上 (大津市の検診、職場検診、人間ドック等を含むがん検診受診率)	胃がん検診	60%	53.4%	54.2%※	↑	-5.8%	B	【最新値：市民意識調査】 市の検診、職場の検診については、策定時と比較するといずれの検診も受診率が増加しています。乳がん検診と子宮頸がん検診については目標値をわずかに下回りました。
	肺がん検診	70%	51.6%	62.4%	↑	-7.6%	B	
	大腸がん検診	70%	58.7%	61.7%	↑	-8.3%	B	
	子宮頸がん検診	60%	47.9%	58.1%	↑	-1.9%	B	
	乳がん検診	60%	47.4%	59.0%	↑	-1.0%	B	
②大津市がん検診受診率の向上 (胃がん検診・肺がん検診・大腸がん検診の受診率には、大津市国保加入者の人間ドック含む)	胃がん検診	8.1%	4.8% (H27,以下同)	8.0%	↑	-0.2%	B	【最新値：大津市保健所】 各検診の受診率は、大腸がんを除いて、増加傾向にあります。このうち、子宮頸がん検診の受診率は目標値を上回りました。
	肺がん検診	26.9%	17.7%	19.1%	↑	-7.8%	B	
	大腸がん検診	30.5%	24.9%	19.5%	↓	-11.0%	D	
	子宮頸がん検診	46.5%	34.4%	51.5%	↑	+5.0%	A	
	乳がん検診	37.9%	25.3%	32.1%	↑	-5.8%	B	
③がん検診の継続受診の割合の増加 (定期的に受けている人の割合の増加)	胃がん検診	50%	33.5% (H28,以下同)	34.7%	↑	-15.3%	B	【最新値：市民意識調査】 各検診の継続受診率は増加していますが、いずれも目標値には届いていません。
	肺がん検診	50%	38.6%	47.2%	↑	-2.8%	B	
	大腸がん検診	50%	36.5%	39.8%	↑	-10.2%	B	
	子宮頸がん検診	40%	29.9%	37.7%	↑	-2.3%	B	
	乳がん検診	40%	30.9%	37.9%	↑	-2.1%	B	

現計画の指標の状況【基本目標別】

基本目標2 がんの早期発見の推進

(2) がん検診の質の向上

指標項目	区分	目標値 (R6)	策定時	最新値	数値 増減	目標値 との差	評価	概況
①がん検診精密検査 受診率の向上	胃がん検診	100%	89.8% (H26,以下同)	94.9% (R3,以下同)	↑	-5.1%	B	【最新値：地域保健・健康増進報告】 各精密検査の受診率は増加しており、特に乳がんと子宮頸がんの精密検査受診率は目標値に近づいています。 しかし、大腸がんの精密検査受診率については目標値との乖離が10%以上あります。
	肺がん検診	100%	88.8%	94.9%	↑	-5.1%	B	
	大腸がん検診	100%	80.7%	89.3%	↑	-10.7%	B	
	子宮頸がん検診	100%	91.1%	97.4%	↑	-2.6%	B	
	乳がん検診	100%	94.6%	98.0%	↑	-2.0%	B	
②がんの早期診断割合の増加 (策定時)「統計でみる滋賀県のがん」二次医療圏より(H29)病巣の拡がり (2017年全国がん登録滋賀県がん情報) (R元)がんの発見経緯と病巣の拡がり(2019年全国がん登録 全国との比較)	胃がん検診	増加	56.8% (H21-25,以下同)	69% (R元,以下同)	↑	+12.2%	A	【最新値：全国がん登録】 策定時と比較すると、胃がん、肺がん及び乳がんの早期発見の割合は増加し目標を達成しています。 大腸がんと子宮頸がんの早期発見の割合は減少しています。
	肺がん検診	増加	33.9%	40%	↑	+6.1%	A	
	大腸がん検診	増加	66.3%	61%	↓	-5.3%	D	
	子宮頸がん検診	増加	83.9%	77%	↓	-6.9%	D	
	乳がん検診	増加	67.7%	68%	↑	+0.3%	A	
③がん検診の管理をする事業所割合の増加		50%	40.9% (H28)	40.1% (R5)	↓	-9.9%	D	【最新値：事業所意識調査】 がん検診の管理をする事業所割合は、策定時と比べてやや減少し、目標値には至っていません。

現計画の指標の状況【基本目標別】

基本目標 3 がん医療の充実と療養生活の質的向上

(1)がん医療の充実と医療従事者等の育成支援

指標項目	目標値 (R6)	策定時 (H28)	最新値	数値 増減	目標値 との差	評価	概況
①がん診療連携拠点病院・支援病院におけるがん看護専門看護師の増加	7人	4人	5人 (R6.4)	↑	-2人	B	【最新値】 ①（公社）日本看護協会 ②：滋賀県「令和5年度がん診療連携拠点病院等現況報告書」
②がん診療連携拠点病院・支援病院における専門的なメディカルスタッフの増加	54人	45人	114人 (R5.9)	↑	+60人	A	①がん診療連携拠点病院・支援病院におけるがん看護専門看護師は1人増加しました。 ②がん診療連携拠点病院・支援病院における専門的なメディカルスタッフについては114人と大幅に増加し、目標値の倍の数値で達成しています。

現計画の指標の状況【基本目標別】

基本目標 3 がん医療の充実と療養生活の質的向上

(2)在宅医療の推進

指標項目	目標値 (R6)	策定時 (H28)	最新値	数値 増減	目標値 との差	評価	概況
①自宅で最後まで療養したいと思 う人の割合の増加	30%	17.3%	19.8% (R5)	↑	-10.2%	B	【最新値】 ①市民意識調査 ②～④大津市保健所 ①「自宅で最後まで療養したい と思う人」の割合は19.8% で策定時より増加しています。 ②在宅医療利用者数は少しず つ増加しています。 ③麻薬管理可能薬局の割合も 91.0%と目標値に近づいてい ます。 ④訪問看護師数はほぼ2倍近 く増加しており、在宅医療の 資源は増加しています。
②在宅医療の利用者数の増加	2,900人	1,793人	2,028人/月 (R4.10)	↑	-872人	B	
③麻薬管理可能薬局割合の増加	100%	84%	91.0% (R6.4)	↑	-9.0%	B	
④訪問看護師数の増加 (常勤換算)	131人	95.5人 (H28)	<u>256.4人</u> (R5.9)	↑	+125.4人	A	

現計画の指標の状況【基本目標別】

基本目標 3 がん医療の充実と療養生活の質的向上

(3)緩和ケアの充実

指標項目	目標値 (R6)	策定時 (H28)	最新値	数値 増減	目標値 との差	評価	概況
①滋賀県緩和ケア研修会修了者数の増加（累計）	1,000人	597人 (H20-28)	<u>1,127人</u> (R4) R4年度修了者 (大津市管内) 89人)	↑	+38人	A	【最新値：滋賀県】 令和4年度末時点で滋賀県緩和ケア研修会修了者数は累計1,127人と目標値を達成しました。 また、同修了者のいる医療機関等も累計57カ所と増加しています。
②滋賀県緩和ケア研修会修了者のいる医療機関等の増加（累計）	100カ所	49カ所 (H20-28)	57カ所 (R4) (参考) R4年度受講医療機関 (大津市管内) 7医療機関	↑	-43カ所	B	

現計画の指標の状況【基本目標別】

基本目標4 がん患者とその家族への支援の充実

(1)情報提供と相談支援の充実

指標項目	目標値 (R6)	策定時 (H28)	最新値	数値 増減	目標値 との差	評価	概況
①ピアサポーター 養成講座を受講し 活動している人数 の増加	40人	17人	16人 (R6.5.1時点)	↓	-24人	D	【最新値】 ①滋賀県がん患者団体連絡協議会 ②滋賀県 ①大津市のピアサポーターは活動中が16人で、計画策定時よりも1人減少しています。 ②がん相談支援センター等における相談者件数は中間評価時の989件と比べると令和4年度末で1,127件と増加しているものの、計画策定時との比較においては相談件数は123件減少しています。 (参考) 滋賀県では、滋賀県がん患者団体連絡協議会を中心に、がんの指定病院の協力のもと、ピアサポーター養成講座を開催しています。令和4年度のがん患者サロンは、12か所で実施しており、ピアサポーターを含めて727人が参加していますが、サロンのがん患者の参加者は減少しています。
②がん相談支援センター等、がん患者相談支援機関における相談者件数の増加	3,000件	1,250件 (H28)	1,127件 (R4)	↓	-1,873件	E	

現計画の指標の状況【基本目標別】

基本目標4 がん患者とその家族への支援の充実

(2) がん患者とその家族の生活支援

指標項目	目標値 (R6)	策定時 (H28)	最新値 (R5)	数値 増減	目標値 との差	評価	概況
①アピアランスケア について情報提供 をする機関の増加	7か所	4 か所	<u>9 か所</u>	↑	+2カ所	A	【最新値：大津市保健所】 平成30年10月からアピアランスケア助成事業を開始し、申請件数は令和3年度以降、年間140件程度で推移しています。 (費用助成実績) 令和元年度 124件 令和2年度 122件 令和3年度 147件 令和4年度 144件 令和5年度 147件

現計画の指標の状況【基本目標別】

基本目標5 働く世代へのがん対策の充実

(1)市内事業所及び保険者等との連携によるがん対策の充実

指標項目	目標値 (R6)	策定時 (H28)	最新値 (R5)	数値 増減	目標値 との差	評価	概況
①がん予防や検診受診促進のために取り組みを行っている事業所の割合の増加	100%	47.5%	58.6%	↑	-41.4%	B	【最新値：事業所意識調査】 ①、③の割合は増加し改善が進んでいます。 ②の「全くがん検診を実施していない事業所」は前回よりも増加しています。 病気や怪我の時に利用可能な制度に関する上位回答 「病気の治療目的の休暇・休業制度」32.2% 「半日単位の休暇制度」27.9% 「時差出勤制度」21.3% 過去調査と比べて減少傾向にある中、「検診・人間ドックを受けるための休暇制度」については、過去調査と比べて増加しました。
②全くがん検診を実施していない事業所の割合の減少	0%	27.7%	30.9%	↑	30.9% オーバー	D	従業員が病気や怪我をした際の休暇・休職・勤務形態などを就業規則で「規定している」は65.6%で、過去調査と比べて増加傾向です。 今後、仕事と治療の両立が実現できる職場が必要になると思うかとの問いに対し、「必要性を感じている」「どちらかというとも必要性を感じている」と答えた企業の割合は89.9%で、過去調査と比べて増加傾向です。
③がんになり患した従業員が就労継続できる事業所の割合の増加	100%	74.7%	76.9%	↑	-23.1%	B	

現計画の評価【総論①】

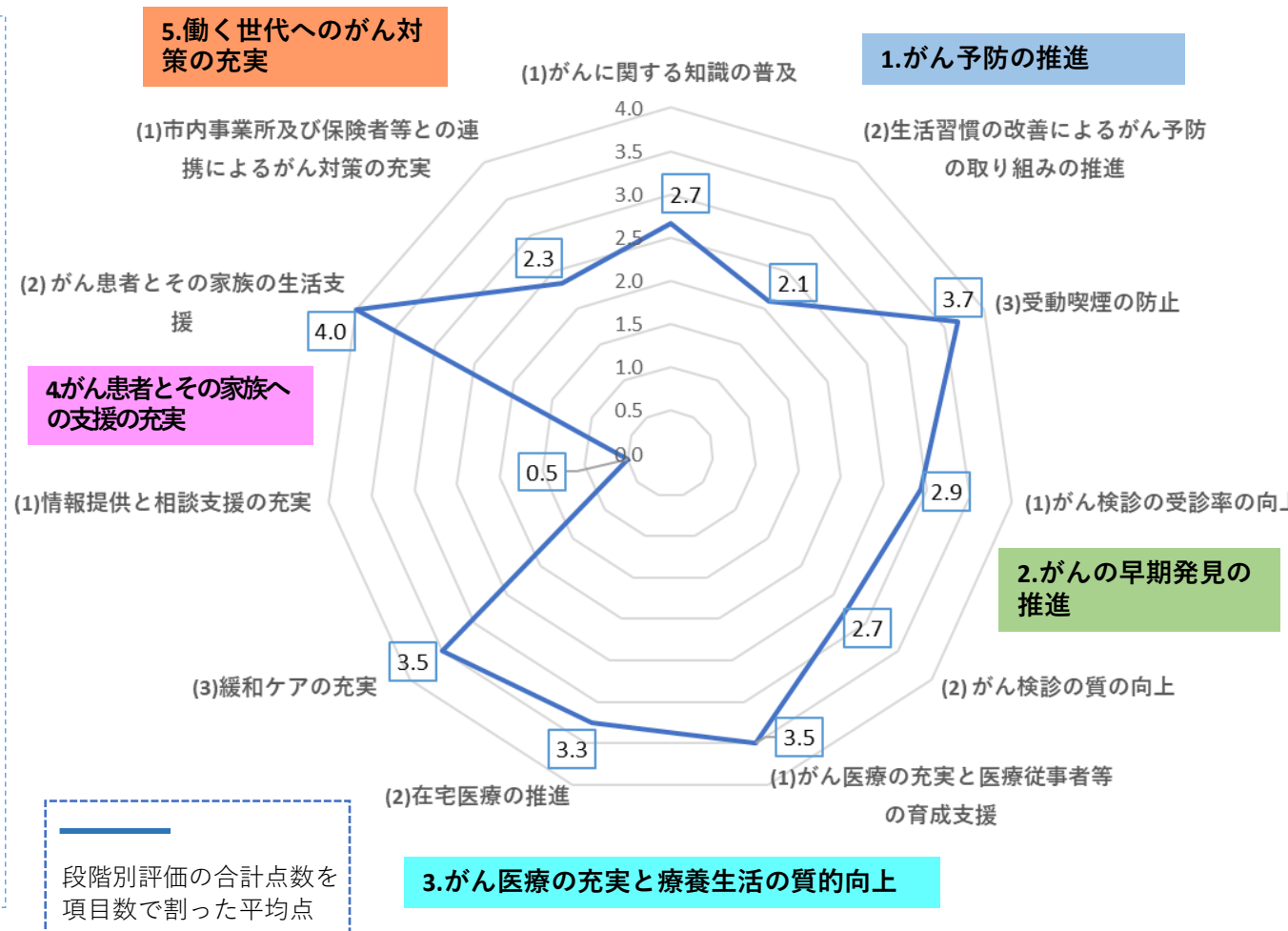
項目別にみた指標の達成・改善状況

基本目標の項目ごとに、達成・改善状況の評価を点数化（A4点、B3点、C2点、D1点、E0点）し、平均点を出しています。

ほぼすべての項目で2.0点を超えています。 「情報提供と相談支援の充実」のみ、0.5点にとどまりました。情報提供と相談支援については、関係機関等、現場での課題や市民ニーズに沿った指標の見直しが必要です。

加えて、以下の項目は平均点2.0を超えたものの3.0点以下であり、今後の対策強化が必要と考えられます。

- ①がんに関する知識の普及
- ②生活習慣の改善によるがん予防の取り組みの推進（運動以外の面）
- ③がん検診の受診率の向上
- ④がん検診の質の向上
- ⑤市内事業所及び保険者等との連携によるがん対策の充実



指標にみる達成・改善状況

多くの項目で策定時よりも改善がみられ、市のがん対策は着実に進んでいます。目標の56指標のうち、達成された指標は12項目あり全指標の約21%を占めています。また、達成には至らないものの、策定時に比べて改善された指標は31項目あり全指標の約55%を占め、合わせて約77%の指標が改善されています。達成された主な指標は以下になります。

<基本目標1 がん予防の推進>

- ・ 20～64歳の年齢階層における男性の運動習慣者の割合増加
- ・ 成人男性の喫煙率減少
- ・ 飲食店での受動喫煙率の減少

<基本目標2 がんの早期発見の推進>

- ・ 市の検診における子宮頸がんの受診率向上
- ・ 胃がん・肺がん・乳がんの早期診断の割合の増加

基本目標	評価					項目数
	A	B	C	D	E	
1.がん予防の推進	4	6	2	2	2	16
2.がんの早期発見の推進	4	18	0	4	0	26
3.がん医療の充実と療養生活の質的向上	3	5	0	0	0	8
4.がん患者とその家族への支援の充実	1	0	0	1	1	3
5.働く世代へのがん対策の充実	0	2	0	1	0	3
評価毎の項目数	12	31	2	8	3	56
全項目数に対する割合	21.4%	55.4%	3.6%	14.3%	5.4%	100.0%

基本目標別にみるポイントと今後の取り組み

<基本目標1 **がん予防の推進**>

がん予防のために「がんになる要因」についての知識普及をさらに進める必要があります。生活習慣の内、食塩摂取量の抑制（男性）や適正体重の維持（中高年女性）、女性の飲酒・喫煙率については計画策定時より数値が悪化しており、がん予防とからめた今後の知識普及が必要です。このため、事業所や学校教育との連携等により多面的な普及を図り、がん予防への理解を深め、具体的な行動変容につなげていくために個人へのアプローチが必要です。

<基本目標2 **がんの早期発見の推進**>

がんの早期発見については、検診受診率の向上面で大幅な改善がみられ、15指標の内、達成が1件、改善が13件と大幅に改善しています。しかし、胃がんについては策定時から市全体の検診受診率が伸び悩んでおり、受診率向上に向けた取り組みの強化が必要です。

<基本目標3 **がん医療の充実と療養生活の質的向上**>

訪問看護師・緩和ケア研修修了者の数や、麻薬管理を可能とする薬局の割合が増加しており、在宅医療の利用者の増加につながっています。

がんと診断された場合に自宅療養を希望する人は年々増加傾向にあることから、がん末期患者の訪問診療やケアに対応可能な在宅医療提供体制の充実が必要となっています。

<基本目標4 **がん患者とその家族への支援の充実**>

医療機関の患者相談支援窓口における相談件数は策定時から減少しており、相談体制等、現場における課題の把握が必要です。

アピアランスケアについては、医療機関の患者相談支援窓口や、ウィッグ等補正用具を取り扱う業者等から制度の案内をしていただいています。

<基本目標5 **働く世代へのがん対策の充実**>

事業所意識調査では、中小企業におけるがん予防や検診受診等の取り組み強化が必要という結果となっています。また、中小企業においても仕事と治療の両立が実現できる職場の必要性を感じていることから、医療関係者、地域団体、産業保健の支援機関等との連携により、中小企業のがん検診受診促進並びに仕事と治療の両立支援の環境整備に関する取り組みを進める必要があります。

2.がん対策に関する市民・事業所意識調査の 結果概要



がん対策に関する市民・事業所意識調査

1. 調査の目的

第2期大津市がん対策推進基本計画の策定に先立ち、現計画の進捗状況及び市民や事業所のがんに対する意識・行動等を把握することにより、次期計画の策定骨子、施策展開に反映することを目的として実施した。

2. 調査期間・調査方法

調査期間：令和5年11月から同年12月まで

調査方法：郵送配布・郵送回収

3. 対象

市民：市内在住の20歳以上75歳未満の住民から3,000人を無作為抽出

事業所：市内に所在する事業所1,600件

4. 有効回答数

市民：1,005人（回収率33.5%）

事業所：512件（回収率32.0%）

調査結果の概要（市民）

◆ がんについて知っていること

多くの項目で前回(R2)の調査時に比べて認知度が増加していました。
一方で、5年生存率や、感染由来のがんに関しては知っているとした人は少数となっています。

◆ がん検診の受診

国が特に受診を推奨する年齢で、大腸がん、肺がんは検診を受けた人が6割を超えています。

また、継続受診については、肺がん、子宮頸がん定期的に受けている人の割合が増加しています。

◆ がん検診を受けなかった理由

「症状がなく、必要性を感じないから」「職場健診に無いから」と答えた人が多くなりました。また、胃がん、乳がん、子宮頸がんについては、「検査内容が苦痛」を理由にしている人が多くなりました。

◆ がんと診断されてからの療養の場所

「自宅から」の療養を希望する人が全体の約8割を占めています。

調査結果の概要（事業所）

◆ がん予防やがん検診の受診促進のための取組

事業所全体の約6割が取り組んでおり、過去調査と比べて増加しています。しかし、従業員数の規模により取組状況に大きな差が生じています。

◆ がん検診の実施

まったく検診を実施していない事業所が約3割となっており、計画策定時と比べてやや増加しました。従業員数の少ない事業所で実施していない割合が高くなっています。

◆ 仕事と治療の両立

実現できる職場が必要と感じている事業所は全体の約55%であり、過去調査と比べて増加傾向にあります。また、そのような職場の実現のために必要な情報提供の内容については、事業者や従業員が相談できる窓口に関する情報を求める割合が高くなりました。従業員数の多い事業所では、従業員の教育を目的とした出前講座の紹介を求める割合が高くなりました。

3.第2期大津市がん対策推進基本計画骨子案について

【国】第4期がん対策推進基本計画見直しのポイントと 国・滋賀県の計画との整合性について

■国における主な見直し内容

1. がん予防

- 「がん検診受診率」の目標について、いずれのがん種においても増加傾向であり、一部のがん種で目標値を達成できたことから、さらなる受診率向上を目指し50%から60%に引き上げ

2. がん医療

- 「緩和ケア」について、すべての医療従事者が診断時から治療と併せて取り組むべきとの趣旨から、がん医療分野の中に記載
- ドラッグラグ等の課題に対し、新たな診断技術・治療法へのアクセスを確保する観点から、新たな技術の「速やかな医療実装」に関する項目を新規に追加し、国際共同治験への参加を含め、治験の実施を促進する方策の検討などの取り組みを推進

3. がんとの共生

- 治療を継続しながら社会生活を送るがん患者が増加する中で、治療に伴う外見変化に対するサポートが重要であることを踏まえ、「アピアランスケア（※）」を独立した項目として記載し、拠点病院等を中心としたアピアランスケアに係る相談支援・情報提供体制の構築等を推進

※医学的・整容的・心理社会的支援を用いて、外見の変化を補完し、外見の変化に起因するがん患者の苦痛を軽減するケア

4. これらを支える基盤

- 国民本位のがん対策を推進する観点から「患者・市民参画の推進」を、医療・福祉・保健サービスの効率的・効果的な提供や、患者やその家族等のサービスへのアクセシビリティ向上の観点から「デジタル化の推進」を、新規追加
- 「全ゲノム解析等実行計画2022」の着実な推進を記載

■国 第4期がん対策推進基本計画

<全体目標>

誰一人取り残さないがん対策を推進し、
全ての国民とがんの克服を目指す。

<柱立て>

- 1.がん予防
- 2.がん医療
- 3.がんとの共生
- 4.これらを支える基盤

■滋賀県 がん対策推進計画（第4期）

<基本理念>

誰もが自分らしく幸せを感じられる

「健康しが」の実現

～県民が、がんを知り、がんを予防し、がんになっても納得した医療・支援が受けられ、自分らしく暮らせる滋賀を目指して～

<全体目標>科学的根拠に基づくがん予防・

がん検診の充実

患者本位のがん医療の実現

尊厳をもって安心して暮らせる

社会の構築

<柱立て>

- 1.がんの予防
- 2.がん医療の充実
- 3.がんとの共生
- 4.これらを支える基盤の整備

第2期大津市がん対策推進基本計画骨子案

基本理念

誰もが自分を大切にし
がんになっても
安心して暮らせる
まちをおつ

～がんを良く知り、
がんを予防し、
がんになっても安心して働き、
暮らせる地域社会の実現を
目指して～

基本目標

1.がんの予防

がんの予防と早期発見の
推進

2.がんとの共生

患者の療養生活を支える
支援と相談・情報提供の
整備

分野別目標

1-1 がんの予防の推進

1-2 がんの早期発見の推進

1-3 がん教育、啓発の充実

2-1 がん医療の充実と
療養生活の質的向上

2-2 がん患者等の支援の充実

次期計画策定までのスケジュール

令和 6 年	5 月	がん対策推進委員会（第 1 回） ・ 現計画進捗評価、次期計画骨子案作成
	6 月	教育厚生常任委員会 ・ 現計画進捗評価、次期計画骨子案報告
	10 月	がん対策推進委員会（第 2 回） ・ 計画素案作成
	11 月	教育厚生常任委員会（臨時） ・ 計画素案報告
	12 月	教育厚生常任委員会 ・ 計画案報告
令和 7 年		パブリックコメント
	2 月	がん対策推進委員会（第 3 回） ・ 計画最終案の説明
	3 月	教育厚生常任委員会 ・ 最終案報告